



定植後、一番初めの防除は
予防効果の高い
アフエットと決めています。



愛知県豊橋市
服部 敏也さん

【プロフィール】
キャベツを6.5ha(夏キャベツ)1.5ha、冬キャベツ5ha。主な品種はだいと、そらと、ゆくと、冬のぼりなどを栽培。2006年に就農し、当初はレタスを栽培。規模拡大に伴いレタスからキャベツに移行し、現在はキャベツのみを栽培。



服部さんが作業で一番気を遣うのが畝立ての作業。「どれだけ真っ直ぐに作れるかが勝負」と話す。

栽培のモットーは「今キャベツが求めていることを知る」こと

キャベツでは日本一の作付け面積を誇る愛知県。中でも、豊橋市はトップクラスの産地として知られています。服部さんがキャベツを栽培する豊橋市西部の神野新田は県下最大の干拓地で、昔から稲作が盛んな地域ですが、最近ではキャベツの作付けへの転換が増えています。

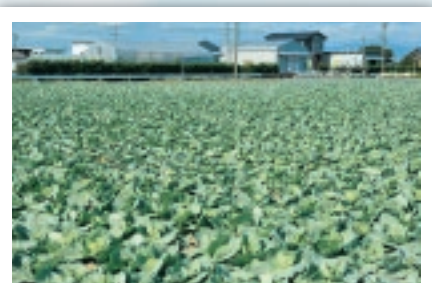
栽培のこだわりは「今キャベツが求めていることを知る」と、服部さんは話します。「肥料なのか、防除なのか、キャベツにとって必要なものを見極めることが大切です。肥料が必要ないところに肥料を入れれば、黒腐病などの原因にもなり、逆効果になってしまう。それだと何のための作業なのか分からなくなりますからね」。

大事な定植後の菌核病防除は予防効果の高いアフエットから

神野新田地区は昔から菌核病に悩まされた地域で、12月中旬頃から菌核病が発生し、主力の秋冬期のキャベツ栽培で問題になっています。「菌核病を防ぐには予防が大事なので、定植後のローテーション防除の一番最初に予防効果の高いアフエットを使っていま

す。夏が過ぎて温度が下がり始めると、菌核病の菌も活性化しますから、そのタイミングを逃さずアフエットを散布して、病気を抑えることを意識しています」。薬剤散布でのこだわりについても、お話をしてくれました。「薬の効果を最大限に発揮させるために、定植直後、『土にかける』ようなイメージでしっかりアフエットを散布しています。以前からローテーション防除は心がけていますが、その中で軸になる剤が増えたのはうれしいですね」。

病害防除に余念の無い服部さんですが、以前経験した失敗が予防の意識を高めるきっかけになったそうです。「作業の関係から定植後に殺菌剤を散布できなかったことがありましたが、その時は菌核病が多発してしまいました。同じことを繰り返さないため、予防効果の高いアフエットをローテーションのトップバッターに持ってきています」と話します。



神野新田地区は豊橋市の中でも暖かく、他の地区よりもキャベツの生育が早いとのこと。

作業の効率化を求め
スマート農業に期待

これからのキャベツ栽培の課題について何うと、服部さんは「作業の効率化」を挙げます。「忙しい時期には一日24時間以上あればいいと思うくらい、やることが目白押しです(笑)。どうすれば作業効率を上げられるかを考えていますが、これからは機械化になりますね」と言い、今はスマート農業についての情報を積極的に収集していると話します。「最近WEBで直進自動操舵補助装置を見つけました。畝立てに利用できないかと、興味があります。栽培作業で一番気を遣うのは畝立てと育苗なんです。特に畝立ては中耕作業のためにも真っすぐに作りたい。今は自分の操縦でやっていますが、とにかく気を使うので1町でへとへとですよ(笑)。でも、自動操舵で正確に直進ができれば、その労力から解放されますからね。一度試験で試してみましたが、仕上がりが素晴らしいですし、機械に任せられるものは取り入れていきたいです」と、将来について力強くお話ししてくれました。

〔産地情報〕

愛知県の東南部に位置する豊橋市は、水稲をはじめ、野菜、果樹、花きなど様々な作物が栽培される、全国でも有数の農業生産地です。特にキャベツは、日本一の作付け面積を誇る愛知県の中でもトップクラスの産地として知られています。

服部さんのアフエット®フロアブルの使い方
(秋冬期キャベツの場合)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
栽培ステージ		収穫					は種		定植			収穫
病害発生時期	菌核病											菌核病

アフエット®フロアブル散布時期

定植後のローテーション防除で一番最初に散布